

樺山資紀 （松本） 海軍軍人、政治家、漢詩人。天保八年十一月十二日薩摩國鹿兒島城下高見馬場生れ、大正十一年二月八日歿（八三七一—九三二）。通稱覺之進。號華山。薩摩藩土橋口與三次の三男、文久三年樺山氏を繼ぐ。戊辰役に従軍、西南役では熊本鎮臺參謀長として谷干城司令官の下で熊本城を死守。明治十二年大警視、翌年陸軍少將に進むと海軍に轉じ、二十八年大將、また初代臺灣總督となり島内を鎮壓。その後内相、文相、樞密顧問官を歴任。伯爵。

漢詩や『松本』、『一松庵詩鈔』（昭和十年十月十日田邊新之助編輯）を遺した。樺山愛輔著『父、樺山資紀』（井澤弘編、昭和二十九年七月）（無刊記）のあり。

